

東海防衛だより

2018年秋号



東海3県の自衛隊の動き

- ◆ 平成30年7月豪雨災害における東海所在部隊派遣
- ◆ 地域に貢献する自衛隊
- ◆ 第1輸送航空隊と航空機動衛生隊が長距離患者搬送

東海防衛支局の取組等

- ◆ 東海防衛支局若手職員の研修開催
- ◆ 平成30年度優秀工事の顕彰
- ◆ 藤の花咲く、にぎわいと交流のスポーツプラザ
(KTXアリーナ(江南市スポーツセンター))

東海3県の防衛産業・技術基盤

- ◆ 防衛の一端を担う高度な技術
(豊和工業株式会社)



名古屋城石垣の清掃

平成30年7月豪雨災害における東海所在部隊派遣

西日本を中心に記録的な豪雨となった被災地に、防衛省・自衛隊は、7月6日から8月18日の間、捜索活動や被災者の生活支援を行いました。（最大時：人員約33,100名、艦船28隻、航空機38機、連絡要員74カ所約300名）

ここ支局管内に所在する陸上自衛隊（守山駐屯地、明野駐屯地、豊川駐屯地、春日井駐屯地）及び航空自衛隊（岐阜基地、小牧基地）からも大部分の所在部隊が派遣され、岡山県、広島県、愛媛県、高知県を中心に、人命救助や給水、入浴、道路啓開、また物資輸送などの支援を行いました。

※ 写真は各部隊より提供



ボートによる救助活動を行う第10特科連隊（豊川駐屯地）の隊員
【於：岡山県】

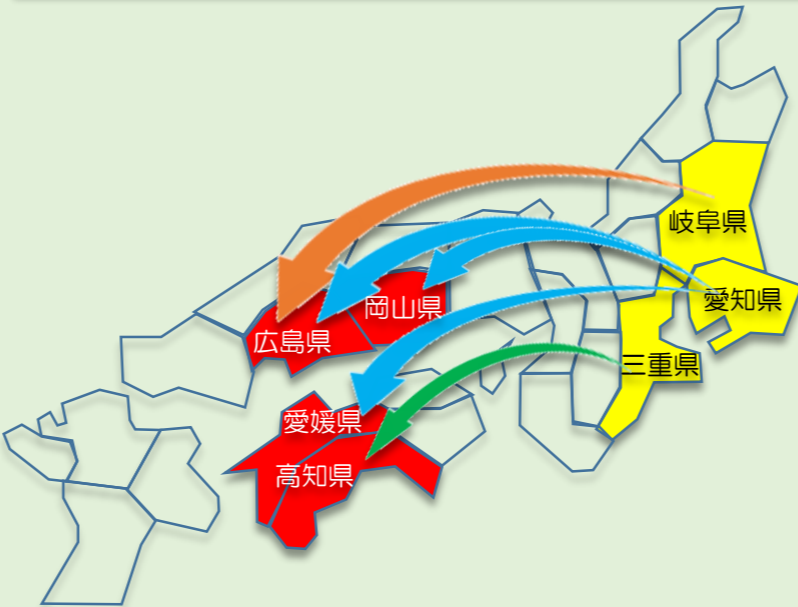
第10特科連隊の中隊長から活動状況の説明を受ける第10師団長（左端：第10師団長）
【於：岡山県】



入浴支援として「尾張の湯」を設置し、被災者とふれあう第10後方支援連隊（春日井駐屯地）の隊員
【於：広島県】



被災地において、C-130H輸送機から物資を積み卸す第1輸送航空隊（小牧基地）の隊員
【於：岡山県】



人命救助のため、くまなく捜索する第10特科連隊（豊川駐屯地）の隊員
【於：岡山県】



被災地に到着した第1輸送航空隊（小牧基地）所属のC-130H輸送機
【於：岡山県】

断水住宅に給水支援を行う第4高射群（岐阜基地）の隊員
【於：広島県】



被災地において、ヘリコプターから物資を運ぶ航空学校（明野駐屯地）の隊員
【於：高知県】



地域に貢献する自衛隊

東海防衛支局管内の部隊は、わが国防衛の任務を果たすため、日頃から厳しい訓練に励むとともに、地震や風水害といった災害発生時の対応に備えています。このほかにも、地域コミュニティと連携し、社会に貢献する様々な活動を行っており、最近の主な活動を紹介します。

災害派遣要請に基づく患者搬送



救急車を機体後方に配置



救急車から患者の搬送

3月23日、航空自衛隊航空機動衛生隊（小牧基地）は、機動衛生ユニットをC-130H輸送機に搭載し、名古屋空港から岡山空港までの約280キロメートルに及び長距離患者搬送を行いました。

音楽隊による特別演奏



名古屋市港区をパレード演奏する音楽隊



御嶽海の偉業に華を添える音楽隊

陸上自衛隊第10音楽隊（守山駐屯地）は、7月16日「第72回海の日名古屋みなと祭」及び7月22日「大相撲名古屋場所千秋楽」において音楽演奏支援を行いました。みなと祭において、名古屋市立西築地小学校で地元高校生と合同演奏を行った後、名古屋港駅周辺の国道154号線で行われたパレードに参加し、沿道に集まった大勢の人々を魅了しました。また、大相撲名古屋場所千秋楽において、厳粛に行われた表彰式では国歌等を演奏し、引き続き実施された優勝パレードでは行進曲「大空」を力強く演奏しました。

名古屋城の石垣清掃



石垣に生えた雑草を除去する隊員



外堀の水上を清掃する隊員

3月28日、陸上自衛隊第35普通科連隊（守山駐屯地）は、名古屋城を清掃しました。本清掃は、名古屋市の依頼を受け、石垣・外堀等、危険箇所に点在する雑木や草等の除去・搬出を行い、名古屋城の美化及び地元社会への貢献を推進することを目的として、昨年より実施しています。石垣清掃では、隊員が石垣のすき間から生えた雑草や雑木等を外堀に切り落とし、渡河ボートに乗り込み水上を清掃する隊員が丁寧に回収しました。

スポーツ行事支援



とん汁を振る舞う給養班

3月11日、航空自衛隊第2補給処業務部給養班（岐阜基地）は、毎年恒例の「かかみがはらシティマラソン」において、参加者や関係者に、とん汁約5,500食を振る舞いました。



報道カメラマンを輸送

2月25日、陸上自衛隊第10後方支援連隊（春日井駐屯地）は、「第40回読売犬山ハーフマラソン」において、報道者（報道カメラ）の輸送及び救護支援を行いました。



銃剣道試合において審判する隊員

7月22日、陸上自衛隊豊川駐屯地は、豊川市総合体育館において実施された「第23回わかしゃち国体記念事業青少年銃剣道大会」において審判等の支援を行いました。



炊事車で調理する隊員

昨年11月29日、陸上自衛隊第33普通科連隊（久居駐屯地）は、「第20回記念ひさい榊原温泉マラソン」において、地域住民に対し、とん汁約1,800食を提供しました。

周辺地域の清掃



清掃活動に参加する隊員

4月14日、航空自衛隊小牧基地幹部会が中心となって参加者の募集を行い、基地の精鋭101名が「小牧山美化活動～春の小牧山を美化ウォーク～」に参加しました。



清掃活動に参加する隊員

7月1日、陸上自衛隊明野駐屯地曹友会は、勢田川沿岸自治体と伊勢市環境会議が同市を流れる「勢田川を天の川に」をスローガンに毎年恒例の清掃活動を行い、ゴミ拾いや草刈り、更に不法投棄物の処分を行いました。

第1輸送航空隊と航空機動衛生隊が長距離患者搬送

空飛ぶ集中治療室（航空機動衛生隊） 地域に貢献する自衛隊の特集

航空機動衛生隊は、各種事態によって発生した、重篤な傷病者を航空機による輸送により、発生地域最寄りの飛行場から搬送先医療機関の最寄り飛行場までの間を後送する際に必要な、機上医療を実施し傷病者の生命を確保する任務を実施しています。

平成30年3月23日（金）、名古屋大学医学部附属病院に入院中の近親者間（父母子間）での生体両肺移植以外に救命の可能性のない患者を岡山大学病院に転院させるにあたり、愛知県知事から航空支援集団司令官に対し、当該患者の空輸に関する災害派遣の要請がありました。

航空支援集団司令官の命を受けた航空自衛隊小牧基地所在の第1輸送航空隊及び航空機動衛生隊の出動とともに、名古屋大学医学部附属病院及びあいち小児保健医療総合センターとが連携して患者を無事に搬送しました。現在、患者は名古屋大学医学部附属病院に転院。院内学級に通い、自分の足でゆっくりと歩けるまでに回復しました。

航空機動衛生隊は、各種事態等において発生する「避けられた死」を局限するため、平成18年10月に航空自衛隊小牧基地に新編されました。主な任務は、各種事態等において発生した重症患者をC-130H輸送機に搭載された機動衛生ユニットに収容し、一般病院の集中治療室と同等の高度な医療監視を行いながら患者の状態を安定化しつつ、搬送先医療機関近隣の飛行場までの長距離患者搬送を行います。

この長距離患者搬送の際に使用する機動衛生ユニットは、電子医療機器を安全に使用できる電磁遮蔽性能や医療行為を行うのに適切な照明装置、機内の騒音を医療行為が可能なレベルまで低減できる防音性能を有しており、平成22年に運用を開始してからこれまで38例の重症患者を無事に搬送してこれたのも、この機動衛生ユニットなくしては大変困難なものでした。

最後に、航空機動衛生隊の出動は、救急車やドクターヘリといった一般の搬送手段では対応困難な場合の、「最後の砦」になることを意味します。

そのため、航空機動衛生隊の隊員は、我々が搬送できなければ患者の救命は限りなく困難であるという重責を認識しているだけでなく、現状に甘んじることなく、あらゆる状態の患者等にも最適な搬送を実施するために必要な知識、技量と自信を追求すべく、隊員一丸となってこれからも日々努力する所存です。



機動衛生ユニットによる患者搬送



機動衛生ユニットをC-130H輸送機に搭載



航空機動衛生隊長
1等空佐
山口 大介

(航空機動衛生隊長談)

東海防衛支局若手職員の研修開催

当支局では、本年度より、若手職員（入省3年以内）の知識習得、育成を目的として、研修を実施することとしました。研修は、課長職以上の職員が講師を務め、業務に関する講義を行うほか、支局における勉強会や講演への参加、部隊研修を実施しています。若手職員が研修を通じて、地方防衛局職員として成長し、防衛省と関係自治体や周辺住民の皆さまとの架け橋となれるよう日々研鑽していきたいと考えています。

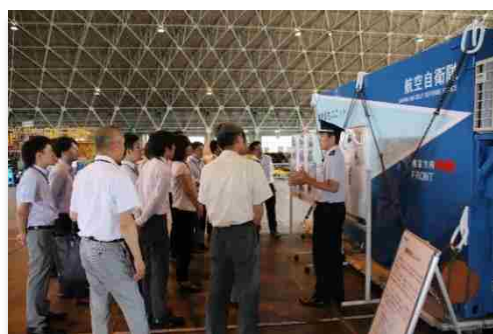
講演会等

6月5日、近傍部隊等も参加をして、支局主催で開催した軍事情勢勉強会において、齋藤雅一大臣官房審議官（当時）を講師として迎え、「我が国を取り巻く安全保障環境」について講演頂きました。本勉強会には、第10師団長甲斐芳樹陸将や愛知地方協力本部長石丸威司1等陸佐をはじめ近傍部隊の長等が多数聴講される中、若手職員も参加し、熱心にメモをとる姿がみられました。

また、7月3日、支局職員を対象とした講演会として、「東日本大震災の教訓～情報共有の視点から～」と題して、通信学校長兼ねて久里浜駐屯地司令廣恵次郎陸将補（当時）から講演頂きました。大震災における教訓と併せ、サイバーセキュリティに関しても触れられ、南海トラフ地震対策への意識が高まっている中での講演であることや、最新のサイバーセキュリティに関する内容に、若手職員も高い関心をもって受講していました。

現地研修

6月28日、航空自衛隊小牧基地の協力のもと、第1輸送航空隊、第5術科学校、救難教育隊、小牧管制隊、航空機動衛生隊の部隊を研修しました。



施設研修



齋藤審議官（当時）による講演



廣恵陸将補による講演



若手職員

平成30年度優秀工事の顕彰



7月2日、東海防衛支局において、優秀工事の顕彰授与式を行いました。

これは、東海防衛支局が発注する建設工事等について、他の模範とするにふさわしいものを優秀工事として選定し、顕彰するものです。

今回は、山岡電気工事株式会社（写真左）、株式会社東海テック（写真中央）に対し、当支局長から顕彰状が授与されました。

お知らせ：東海防衛支局が実施する建設工事は平成30年度中に近畿中部防衛局（大阪）に一元化して業務を実施することとなり、支局の組織も改編される予定です。詳しくは今後の「東海防衛だより」でもお知らせします。

藤の花咲く、にぎわいと交流のスポーツプラザ

KTXアリーナ (江南市スポーツセンター)

東海防衛支局は、平成27年度から平成29年度にかけて、愛知県江南市が実施した体育館の新設工事に、航空自衛隊岐阜基地に関連する民生安定施設助成事業として、約4億6千8百万円の補助を行いました。

本施設のネーミングライツ愛称はKTXアリーナといい、バスケットボール、バレーボール、バドミントン等の競技スポーツにも対応することができるメインアリーナとサブアリーナを有し、最新のトレーニング施設も併せ持つ江南市で唯一の本格的なスポーツセンターです。また、災害時には緊急避難場所として利用されるという目的も併せ持って整備されました。



KTXアリーナの外壁ガラスに描かれた大きなウェーブは江南市の象徴の藤棚をイメージしています



メインアリーナ



トレーニング施設

利用者の声



メインアリーナは大変広く、しかも綺麗ですね。サブアリーナとともに多種目に対応していて、活動するのがとても楽しみです。

体調管理のため、仕事帰りに毎週トレーニングジムに通っていますが、手軽に利用できトレーニング機器も揃っていて大変ありがたいですね。



KTXアリーナ開館にあたって、4月30日、江南市において開館記念式典が開催されました。式典ではテープカット式に続き、澤田江南市長が挨拶を行い、来賓として、牧野江南市議会議長、江崎衆議院議員、奥村愛知県議会議員、倉内東海防衛支局長(当時)がそれぞれ祝辞を述べました。



テープカット式

支局長、市議会議長、市長、奥村県議会議員、KTX(株)社長



江南市長挨拶

藤の花の名所「曼陀羅寺公園」では、藤まつりが4月下旬から5月上旬にかけて開催され、見事な藤の花が見頃でした。



曼陀羅寺公園

市担当者の声



市マスコットキャラクター「藤花(ふじか)ちゃん」

この施設は、「誰もが気軽に健康づくりを楽しめる、にぎわいと交流のスポーツプラザ」をコンセプトに整備されました。大人や子ども、高齢者や障がい者の方、誰もが生涯にわたってスポーツに親しむことができる施設となっています。

また、市の防災拠点として活用できるよう整備されており、災害発生時の市民の安心感につながる役割も担っています。

防衛の一端を担う高度な技術

豊和工業株式会社

東海防衛支局では、防衛省・自衛隊が使用する装備品の調達にあたり、製造工程での審査や、最終的な完成検査を行っています。そこで、このコーナーでは我が国の防衛力の基盤となる製造会社の技術力を紹介します。

1 ものづくりにかけた100年

豊和工業株式会社は、明治40年2月当時、輸入品に独占されていた繊維機械の国産化・量産化を目指し、豊田式織機株式会社としてスタートしました。昭和7年より、織機製造で培った鋳物製造技術を用い陸軍造兵廠名古屋工場の発注した手りゅう弾の弾体製造を始めました。その後、工作機械、鋳鋼なども手掛けはじめ、戦時中は、九九式小銃のほか、火砲、航空機部品などを製造していました。

戦後は繊維機械、工作機械等の製造をいち早く再開させるとともに、小銃や猟銃の開発・製造にも取り組みながら、絶え間なく蓄積した技術により時代のニーズに応えるべく、新分野である防音サッシ・ビル用サッシ等の金属製建具、空油圧機器、清掃車両の分野へ進出し、事業を展開しています。

防衛省に関連する事業である小銃と防音サッシについて紹介します。

2 日本人の体格に合わせた小銃

日本人の体格にあった小銃を作ることを前提とし、社内研究に取組み、昭和37年から防衛庁(当時)の研究開発に参画し、昭和39年に64式7.62mm小銃として採用されました。その後、NATO第2標準弾である5.56mm弾が使用できる新小銃の社内研究に取組み、昭和50年から防衛庁の研究開発に参画し、14年に及ぶ開発・実証テストを経て、平成元年に89式5.56mm小銃として採用されました。89式5.56mm小銃は、64式7.62mm小銃と比べ、銃本体に樹脂性部品を採用し、部品点数を少なくするなど、軽量で、コンパクトな小銃になっています。89式5.56mm小銃は、高い技術力と日本人特有の丁寧なものづくりから抜群の命中精度を誇る小銃としても部隊から高い評価が得られています。

89式5.56mm小銃と64式7.62mm小銃の比較

名称	全長 (mm)	重量 (kg)
89式5.56mm小銃	約920	3.5
64式7.62mm小銃	約990	4.4



89式5.56mm小銃



64式7.62mm小銃



豊和工業株式会社



九九式小銃

3 防衛の一端を担う高度な技術

(1) 小銃の製造技術

89式5.56mm小銃の製造には様々な工程がありますが、重要な工程のひとつに、冷間鍛造によるライフレング工程があります。冷間鍛造とは、材料を加熱せずに常温に近い温度で金属に圧力を加え、変形させながら成形を行う技術です。常温で成形するため、成形精度が高く、切削加工と比べ強度を高くできるとともに、高速加工が可能となります。豊和工業では64式小銃の製造で培ってきた冷間鍛造技術を活用し、銃腔内にライフレングの溝を成形することにより、品質の良い銃身を大量に製造することができます。

(注) ライフレングとは、銃身内に施されたらせん状の溝のことを意味し、銃身内で弾丸に回転を与えて弾丸の飛翔を安定させるためのものです。



ライフレング工程を行うための冷間鍛造機

(2) 小銃の「命」を造り出す匠の技

小銃の「命」とも言える命中精度を確保するために必要不可欠な作業が銃身の「歪(ゆが)みとり作業」です。銃身製造の工程の中では僅かな歪みが発生してしまうため、その歪みを矯正しなければ、小銃として命とりになってしまいます。

この歪みを矯正する作業には、銃身のどこがどの程度歪んでいるのかを「人間の目」で見極めると同時に、この歪みを即座に矯正する「瞬発力」が求められます。この歪みの「見極め」と「矯正」を同時に、かつ瞬時にを行うことを機械化することは難しく、長年に亘る絶え間なく蓄積してきた経験を伝承しながら、特殊かつ高度な技能を持った、いわゆる匠の技を持った作業者が行っています。ものづくりにかける情熱は、今も仕事の現場に息づいています。



歪み取り作業

4 防音サッシ

防衛省が行っている防衛施設周辺の学校や住宅等の防音工事では、航空機騒音を軽減するため、建物の出入り口や窓部分に「普通サッシ」より遮音性能に優れた「防音サッシ(金属性機密建具)」を設置しています。

豊和工業においても、銃火器類等の製造のほか、当該防音サッシの製造も行っており、全国の防衛施設周辺の防音工事において採用されています。



レバーハンドル

防 衛 セ ミ ナ ー の お 知 ら せ

平成30年度 東海防衛セミナー

「日本の安全・安心を考える」

第1部「我が国を取り巻く安全保障環境」
防衛省 大臣官房審議官

倉内 康治

第2部「航空自衛隊の概要」
航空自衛隊 岐阜基地司令

空将補 平元 和哉

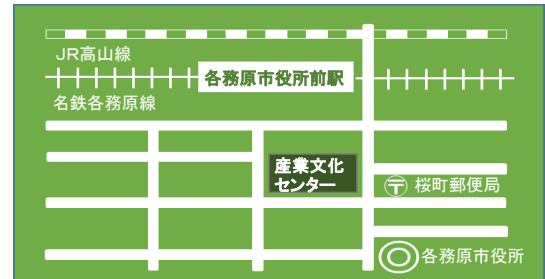
主催：防衛省 近畿中部防衛局 東海防衛支局
お問合せ先／東海防衛支局施設企画課 052-952-8223

日時

11/7(水) 入場無料

開演14:00(開場13:00)

会場

各務原市産業文化センター
あすかホール(1階)

注) 有料駐車場は台数が限られておりますので各公共交通機関をご利用下さい。

NHK受信料助成の制度見直しについてお知らせ

防衛省におきましては、自衛隊等の航空機の騒音により、テレビの音声が聴き取りにくくなっている地域の方々に対し、NHK放送受信料の一部を助成(防衛施設周辺放送受信事業)してきており、当支局管内では航空自衛隊岐阜基地周辺において行っているところです。

本助成制度はその開始から30年以上が経過しており、次のとおり一部見直しを行っております。詳しくは、東海防衛支局のホームページをご覧ください。

- ・住宅防音工事が完了した世帯については、平成30年8月31日をもって助成を終了
- ・一部住宅防音工事を実施した世帯については、平成30年9月1日から助成額を半額にし、平成36年3月31日をもって助成を終了
- ・事業所及び助成対象区域への新規転入者については、平成30年3月31日をもって助成を終了

※お問合せ先：東海防衛支局周辺環境整備課 052-952-8225

支 局 長 ・ 会 計 課 長 着 任 紹 介



東海防衛支局長
森 卓生
30.8.3着任

本年8月3日付で東海防衛支局長を拝命した森です。当支局が管轄する東海3県には、多くの防衛施設や防衛生産・技術基盤が所在しています。

わが国を取り巻く安全保障環境が厳しさを増す中、自衛隊の活動の基盤を支えるこの地域の重要性は益々大きくなっています。

今後とも、地域の皆様のご理解とご協力を頂けるよう、防衛施設の安定的運用や防衛装備品の着実な取得などにしっかり取り組む所存ですので、よろしくお願ひ申し上げます。



会計課長
吉田 俊康
30.8.3着任

